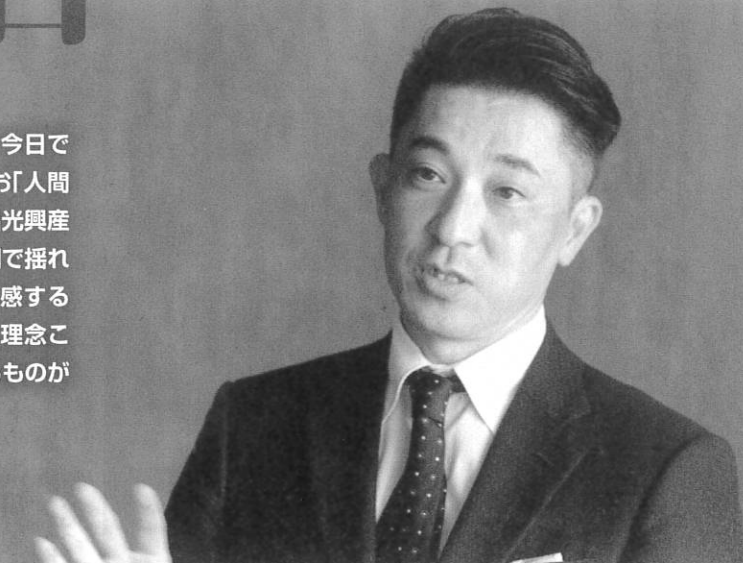


社外参謀の明日へのヒント!

出光佐三が100年前に創設した出光商店は、今日では9兆円の売上高を持つ大企業に成長し、今なお「人間尊重」の理念を守り続けている。佐三氏に憧れ、出光興産でキャリアを積んだ石原氏は、理想と現実の狭間で揺れながら自己成長を遂げ、本物の大家族主義を実感するに至る。そして改めて佐三氏が築き上げた企業理念こそ、現代の「働き方改革」や「自立型経営」に通じるものがあると論じる。



出光興産創業者
出光 佐三 氏

社外参謀
石原 尚幸 氏

出光佐三との出会い

私は平成8年、出光興産に入社しました。出光興産に内定後、一冊の本が課題図書として与えられます。その本が、日本人ならではの「大家族主義」と、裸一貫で数兆円カンパニーを一代で作り上げたベンチャー精神を両立させてきた出光佐三の武勇伝「評伝・出光佐三」土魂商才の軌跡」を就活時代に読んだのが出光佐三との出会いです。内定をもらいうくらいで、出光佐三の残してきた経歴を読み、これほどまでに日本人として日本にこだわり、それでいてなおかつ商売の才覚もある、こんな経営者がいたんだ！この会社で働けるのかと心躍らせていました。

「人間尊重」なんてきれいごとですよな??

ところが実際に入社してみると様相が違います。地方の営業支店に配属され、無理難題を言う上司と販売店さんの間に挟まれます。そして、不合理な世の中に飲

み込まれます。セクハラもパワハラもブラック企業も言葉すら生まれていない時代、深夜の残務に追われる中、後輩がポツリとつぶやきました。「人間尊重なんてきれいごとですよな? 僕たちちつとも尊重されていませんよ」。その独り言にモヤモヤしながらも反論できませんでした。そんなモヤモヤを先輩にぶつけてみると思わぬ反応が返ってきました。「そうね、その後輩の言う通り理不尽なことだらけだよな。でもね、人間尊重というのは、人が尊重されていないからこそ、尊重される自分になる。尊重される人間になるように人格もスキルも磨いていこうという意味なんだよ、きつ」と

目から鱗とはこのことでした。私も独り言を言った後輩も自分が尊重されることを考えていました。自分が尊重される努力をしると佐三は言っていたのです。それ以来は出光佐三の言葉が腹落ちし、尊重される自分になることが私の目標となりました。

一人一人が経営者

出光には面白い教えがあります

社外参謀・石原氏の考察

脱炭素社会到来による燃料油需要のさらなる減少を目前に、SSは新たな収益を確保していかねばなりません。人件費もまだまだ上昇します。設備投資もかかります。そのため、財源を利潤から確保せねばなりません。そして、その利潤を稼ぐのは他ならぬSSでがんばるスタッフの皆さんです。

お客さんが喜んでお金を払ってくれるだけの商品を開発提供し、技術力・サービスを備えた社員を育成していく。その結果として私たちはSSが成長発展していくだけの財源を確保していけると考えます。大変なチャレンジではありますが、私には思いません。

人間尊重。資本主義創成期から主張してきた出光佐三の理念は、決してきれいごとではなく、実践に基づいた原理原則です。そして、これからのSS業界が目指すべき一つの姿ではないでしょうか。



(株)プレジデントビジョン
石原 尚幸
代表取締役

いしはら・なおゆき。1973年生まれ、愛知県名古屋市出身。96年、上智大学経済学部経営学科卒業後、出光興産に入社。京都支店、関東第二支店を経て05年本社・販売部企画課に配属。08年に独立起業し、2012年法人化した。

す。自分の持ち場は自分が決裁者であるとの考えです。この教え通り、当時の出光は末端の社員が大きな権限を渡されていました。社を代表して経産省に向向していた時、他社の社員が「持つて帰って上司に相談します」と返答をするのに対し、私だけ「これで大丈夫です」と回答し驚かれました。回答を持って帰ったところ「お前はどっか思うんだ?」と聞かれるのがオチです。そのため回答を持って帰ることはありません。権限と責任を持たされて

いたことで自分の判断に対し、本当にこれで正しいのかと自問自答しながら決断をする覚悟を学びました。

大家族主義は実在する

独立心が強すぎた私は34歳の時、出光を退社する決意を上司に告げました。「そうか」とすぐに言われるかと思いきや、「先輩たちで面談をしてクリアしたらOKしてやる」と言われ、1カ月間、毎日のように過去の上司や先輩と面談となりました。誤解のなきように。面談は説得工作ではなく意思確認なのです。辞めてどうするのか?、本当にやっていけるのか?と親身に私の人生を考えてくれました。最後は上司と妻との三者面談を経て、ようやく辞表が受理されました。たかが1人の社員が辞めるだけでここまで対応です。社員は家族である。そう公言する会社は多いですが、その理念を体現している会社は多くないのではないのでしょうか。本物の大家族主義を辞める時に強く認識させられました。

100年前、裸一貫の出光佐三が立ち上げた出光商店は今や9兆円の売上高を誇るビッグカンパニーです。そんな大企業でありながら出光佐三の掲げた「人間尊重」の理念を守り続ける会社でもあります。私が学んだ出光理念は、人間尊重、一人一人が経営者、大家族主義は、今の時代の「働き方改革」や「自立型経営」「ワークエンゲージメント」に通じるものがあります。この考え方をすでに100年前に持っていた出光佐三の先見の明に舌を巻くばかりです。

SS業界は常に理念と現実の狭間で葛藤してきました。利益を上げるために油外販売を強化せねばならない。しかし、過度な油外販売強化は間違っていた押し売りとなり顧客の不信を生み、過度な販売目標に嫌気がさし業界を去った人材もいたことでしょうか。私たちは同じ轍を踏むわけにはいきません。